

# INTERVIEW

翔か

T a i c h i Y o s h i d a



キーパーズ有限会社代表取締役

## 吉田太一さん

よしだたいち

1964年、大阪府大阪市生まれ。

1983年、大阪市立桜宮高校体育科卒業。

その後、調理師学校へ行き、日本料理の板前として大阪、神戸で修業。

1986年、東京で飲食店店長。

1988年、大阪に戻り、佐川急便に入社。

1994年、独立し、吉田運送を創業。

日本初の「ひっこしやさんのリサイクルショップ」を開く。

2002年、名古屋市で日本初の遺品整理会社「キーパーズ」を設立。

現在は、東京、名古屋、大阪、福岡に支店を展開し、

順調に業績を伸ばしている。

「私たちが提供しているのは、  
『究極のサービス』です。  
柔軟な面持ちからは想像できないくらい、  
自信にあふれる口調で語る吉田さん。  
日本初の遺品整理会社が語る  
『感動を与える』ための秘訣とは——。」

＊＊＊「遺品整理」というのは聞き慣れない言葉ですが、お仕事の内容を教えていただけますか。

遺品整理とは、一言で言えば「天国へのお引越しのお手伝い」です。たとえば、自分が独りぼつちで急死してしまった場面を想像してみてください。そのまま変わった姿になるまで放つておかれたらいやでしょう。きっと亡くなつた方も「早く片付けてくれよ」と、落ち着かない気持ちで天国からその様子を見下ろしてくると思うのです。私たちには故人のお気持ちも含めて持ち物(遺品)を片付けさせていただきながら、「遺品のお引越し」をさせていただきます。たとえば、故人が愛用していた湯呑みなんかがありますよね。それは天国でも使いたいと思うのです。ですから、祭壇の前でいいねいに供養することで、遺品を天国に運ぶのです。また、現実的に遺族がすべての遺品を引き取

ることは非常に難しいといえます。大量の遺品の仕分けは負担になりますし、ご遺族がご高齢の方や遠方に住んでいる方でしたらなおさらです。引き取れる量にも限りがありますよね。捨てる見えない、しかし故人の大切なものを「捨てる」ことに抵抗がある……。遺族にはそんなジレンマがあります。そこで、一度私たちに遺品をお売りいただき、あるものはリサイクルに、あるものは仮前供養したうえで処理するという形で「遺品整理」のお手伝いをさせていただきます。こうすると、遺族が「捨てた」ことにはなりません。体の負担はもちろんなこと、ご遺族の心の負担はぐっと軽くなります。私はあくまで黒子であり、主役である故人とご遺族が満足していただけるよう橋渡しをするのです。

故人が残されるものは、家具や電化製品、布団、食器、洋服をはじめ、本、写真など、人それぞれ、とにかく私は「人がやっていないことをやりたい」という気持ちの強い人間ですから、思つたことはすぐ行動に移しています。もともと引越し屋をしていましたのですが、いらなくなつた家具の処理に困るお客様がかなりの割合でいらっしゃることに気づきました。そこで、不要になつた

＊＊＊日本で初めて遺品整理会社を立ち上げた、その経緯を教えてください。

とにかく私は「人がやっていないことをやりたい」と、ご遺族の心の負担はぐっと軽くなります。私はあくまで黒子であり、主役である故人とご遺族が満足していただけるよう橋渡しをするのです。

故人が残されるものは、家具や電化製品、布団、食器、洋服をはじめ、本、写真など、人それぞれ、とにかく私は「人がやっていないことをやりたい」という気持ちの強い人間ですから、思つたことはすぐ行動に移しています。もともと引越し屋をしていましたのですが、いらなくなつた家具の処理に困るお客様がかなりの割合でいらっしゃることに気づきました。そこで、不要になつた